

インタビュー

高知県インタビュー

～まんが・コンテンツビジネスによる地域振興～

(取材日：平成 29 年 12 月 26 日)

高知県文化生活スポーツ部まんが王国土佐推進課
課長補佐兼チーフ

高知県商工労働部産業創造課 チーフ

高知県商工労働部産業創造課 主幹

田村 知之 氏
光内 真紀 氏
武市 正人 氏

目次

1. 組織について
2. 高知県出身の漫画家について
3. 「まんが甲子園」について
4. まんがによる地域振興
5. コンテンツビジネスへの波及
6. 経済効果について
7. その他の知財の取り組み
8. 今後の課題
9. 弁理士への期待
10. 高知県紹介写真

多くの漫画家を輩出している高知県では、長年にわたり、まんがを地域振興に活用しています。この取り組みが発展し、現在はコンテンツビジネスの振興も推進されています。編集部では、高知県のこれまでの取り組みや今後の展開について、高知県文化生活スポーツ部まんが王国土佐推進課・田村知之氏、商工労働部産業創造課・光内真紀氏、武市正人氏にお話を伺いました。

1. 組織について

○編集部 この度は日本弁理士会のインタビューをお受けいただき、誠にありがとうございます。以前、高知県には「まんが・コンテンツ課」という課があったと伺っております。このような組織を設けた経緯についてご紹介いただけませんか。

○田村氏 まんがの取り組みは、昭和 63 年頃から文化振興の事業の一つとして実施してきました。そして、平成 4 年から「まんが甲子園」を開催しております。その後、平成 22 年に、尾崎高知県知事の方針で、

コンテンツ産業を振興していこうとなりました。高知県は地理的にハンディキャップがあるのですが、それを克服できる産業として、コンテンツビジネスに力を入れようとなったときに、まんがとの親和性が高いということで、平成 22 年にまんがとコンテンツを合体させて、「まんが・コンテンツ課」ができています。「まんが・コンテンツ課」はまんが文化振興とコンテンツ産業振興の 2 つの柱がありました。まんがチームは、「まんが甲子園」や「全国漫画家大会議」という取り組みを行い、コンテンツチームは、昔はソーシャルゲームの企画コンテストなどを開催していました。そういった取り組みを通じて形成した人脈を生かし、企業を誘致して、高知で活躍していただくという取り組みに徐々に変わっていきました。こうして 2 つのチームが動いていく中で、コンテンツの領分が文化振興というよりも、商工・産業分野に近づいたので、平成 29 年度から「まんが・コンテンツ課」が、商工労働部「産業創造課」と文化生活スポーツ部「まんが王国



(左から) 武市正人氏、田村知之氏、光内真紀氏

土佐推進課」の2つに分けられました。

○**編集部** なるほど、取り組みの発展に伴い、「まんが王国土佐推進課」と「産業創造課」に分かれたということですね。

2. 高知県出身の漫画家について

○**編集部** 「まんが王国土佐推進課」の取り組みについてお聞かせください。まずは、まんが王国・土佐ということなので、出身の漫画家の方や、舞台になったまんがなど、教えてください。

○**田村氏** 高知出身の漫画家としては、有名なところでは「ふくちゃん」の横山隆一先生に始まり、やなせたかし先生、はらたいら先生、黒鉄ヒロシ先生など、テレビでもおなじみの方々がいらっしゃいます。他に、「毎日かあさん」の西原理恵子先生、「ツルモク独身寮」の窪之内英策先生、今の世代では「ニセコイ」の古味直志先生などです。舞台になった作品は、例えば、青柳裕介先生の「土佐の一本釣り」、楠みちはる先生の「シャコタン☆ブギ」ですね。ところどころ高知を舞台にしたような風景が描かれています。

○**武市氏** 坂本龍馬を扱ったまんがでは小山ゆう先生の「お〜い！竜馬」とか、最初のころは高知が舞台です。

○**田村氏** そうですね。江戸時代の高知が描かれています。

3. 「まんが甲子園」について

○**編集部** では、「まんが甲子園」とはどういうものかご教示ください。

○**田村氏** 正式名称を「全国高等学校漫画選手権大会」といい、高校生を対象にしたまんがの競技会です。まさに野球の甲子園のように純然たる競技会。1校1チームという決まりがあり、1チームは3人から5人と決められています。まんがは基本的に1人で描くことが多いのですが、「まんが甲子園」ではそれをあえてチームで描くという形式を採用しています。4月に予選作品を募集し、毎年300校前後の応募があります。6月に予選審査があり、海外を含めて33校が予選を通過します。8月の第1土曜日・日曜日の本選大会で高知に集まっただいて、5時間半でテーマに沿った作品をかき上げ、審査を行い、最も優れた作品に最優秀賞を付与するという大会です。

○**編集部** 応募は全国からあるのでしょうか。

○**田村氏** 全国からです。

○**編集部** 大体同じ高校からの応募が多いですか。

○**田村氏** そうでもなく、入れかわりがあるんですね。1割ぐらいは常に新規の学校だったと思います。

○**編集部** 海外の学校はどういうきっかけで応募されるのですか。

○**田村氏** 海外はごく最近です。韓国の全羅南道と高知県が友好交流を続けていて、その一環で第23回大会（平成26年）に、高校生の国際交流事業として「まんが甲子園」に招待したのが始まりです。その後、「まんが甲子園」をもっと国際化していこうということになり、高知県への外国人訪問客数のトップの台湾に注目しました。市場調査に行くと、漫画博覧会という60万人を集めるイベントをやっている、日本のまんがと非常に相性が良いということが分かり、平成28年度から韓国、台湾に予選の呼びかけを開始しました。平成29年はもう1か国増やそうということになり、アジアの中心で情報の拡散が期待できるシンガポールを加えて3カ国から予選作品を募集し、国内30校と合わせて33校で本選大会を実施しています。

○**編集部** 競技会の予選・本選でテーマが設定されるのですか。

○**田村氏** 予選では2題出題しまして、そのうち1題を選んで応募するようになっています。予選通過校には、事前に本選のテーマを5題お知らせします。このうち、第1次競技で1つ、敗者復活戦でもう1つ、そして決勝戦と、5つのうち3つ出題されるような形になっています。

○**編集部** 高知にゆかりのあるテーマなのですか。

○**田村氏** そういうテーマもありますが、基本的に時事ネタが多いです。

○**編集部** どのような方が審査員になられるのでしょうか。

○**田村氏** 審査委員長はコマ漫画の大家の牧野圭一先生です。国際的な賞も受賞されており、日本漫画家協会の理事もされていて、読売新聞に15年間政治漫画を連載していた著名な方です。他に、プロの漫画家の方で、ひのもとめぐる先生、Moo.念平先生、高知県在住のくさかり樹先生が審査員をされています。さらに、セミプロ漫画家の方がお二人の、計6名がレギュラー審査員です。このほか、2名ゲスト審査員ということで、毎年出版社へ行ってお願ひしております。昨年は「ぱじ」「星守る犬」「ナマケモノが見てた」を描

かれている村上たかし先生、「ういらぶ。」の星森ゆきも先生に来ていただきました。過去には、ゲスト審査員にちばてつや先生にお越しいただいたことがあります。



(第26回まんが甲子園レポート 表紙)

○編集部 「まんが甲子園」出身の高校生たちはイラストレーターや漫画家を目指しているのですか。

○田村氏 そういう高校生も多いと思います。有名なところでは、『コロコロコミック』で「でんじゃらすじーさん」をかかれている曾山一寿先生が「まんが甲子園」のOBとして活躍されています。「まんが甲子園」は女子高生が多いですから、少女漫画でデビューされる女性漫画家もたくさんいらっしゃいます。「まんが甲子園」にはスカウト制度もありますので、小学館、講談社、秋田書店、KADOKAWA、スクウェア・エニックス、コミックススマートなどからスカウトされる可能性があります。

○編集部 ほんとうに甲子園みたいです。

○田村氏 野球のドラフトと一緒に。漫画家を目指して完成原稿を持ってくる生徒もいます。

○編集部 それは出版社の方に売り込むためですか。

○田村氏 はい、出版社宛てに持ってきます。

4. まんがによる地域振興

○編集部 まんがに焦点を当てて地域振興を行うことは、行政の取り組みとしてすんなり受け入れられたのでしょうか。

○田村氏 1952年（昭和27年）頃から高知新聞の紙上でマンガ教室がスタートし、高知新聞がまんがをかなり取り上げてくださっていたので、地域の文化としてもともと素地があったと言えると思います。その後、昭和63年の話になるのですが、中内元高知県知事の時代に国民休暇県構想というのがありました。一言で言うと、「高知に来てゆっくりしてもらおう」という構想で、その取り組みの一環として「あったか高知まんがフェスティバル」が始まりました。「あったか高知まんがフェスティバル」を4年ほど続け、平成4年から「まんが甲子園」に形を変えて今まで続いているという状態です。

○編集部 「まんが甲子園」以外の取り組みは何かありますか。

○田村氏 一番大きな取り組みが、今年で4回目になるんですが、「全国漫画家大会議」というイベントをやっております。著名な漫画家の先生方を多数お招きして、日本のまんが文化を語っていただくというイベントになっておりまして、それに付随した展示会もあり、「まんが王国土佐推進課」のもう一つの柱となっています。そのほか、当課の事業としては、情報発信や小中学生向けのまんが教室、まんがを活用したテキストを作成して授業で活用してもらおうというコンテンツ創造教育も重要です。特にコンテンツ創造教育は、高知県ならではの政策ではないかと思います。

○編集部 地域文化としてまんがの取り組みをしているということですね。



第4回全国漫画家大会議の様子（平成30年3月）
※高知県提供

5. コンテンツビジネスへの波及

○編集部 まんがとソーシャルゲームなどのコンテンツと、2つの取り組みを軸としてコンテンツビジネスの活性化を目標にされていたのですね。

○武市氏 はい、インターネットにつながる環境があれば大都市圏から離れた地域であっても事業展開が可能で、地理的な条件に左右されにくいコンテンツ産業を振興していこうと始まりました。一番大きなきっかけは、元スクウェア・エニックスの代表取締役社長の武市智行氏が高知県出身で、県のコンテンツ産業振興アドバイザーについていただいたことです。そして、「まんが・コンテンツ課」でコンテンツチームが動き始めたときの最初の取り組みが、ソーシャルゲームの企画コンテストを開催し、高知でソーシャルゲームのビジネスを起こしていこうというものでした。企画を公募して、ゲーム誌の編集長の方などにお越しいただいて審査を行い、最優秀賞をとった企画を実際に県内の企業が開発するというもので、6作品を開発しました。この取り組みの中で県内での雇用が生まれたり、首都圏のゲーム開発会社と県内企業との関係が生まれてビジネスが始まるなど、一定の成果が出ています。

○編集部 コンテストだけではなく、実際に開発までされたんですね。イラストレーターの育成についてはどうでしょうか。

○武市氏 ゲームで使用するカードイラストのコンテストを行いました。県外のゲーム会社の方に審査員をしていただいて入選作品はゲームに登場するという企画で、需要の高いカードイラストレーターを発掘し、県内企業の仲介・契約代行によって、県内外のゲーム開発会社とのビジネスマッチングを進めることで、新たにビジネスが生まれました。

○編集部 企業同士の出会いの場となったわけですね。

○武市氏 はい。これらの取り組みを進める中で、県外企業の高知県への立地という可能性が見えてきたため、企業の誘致活動を始めることになりました。

○編集部 「まんが甲子園」やゲーム向けイラストコンテストなどの取り組みがつながって、企業誘致まで発展していったのですね。進出する企業にとって、高知県に進出するメリットはどんなところでしょうか。

○武市氏 産業創造課の取り組み全体として、コンテンツ関連企業の誘致、人材確保・育成、県内の企業間の連携支援、事業化・販路拡大のための外商の推進と

いう4つの柱を立てて活動しています。県内に立地してから人材を確保し、県内の企業と連携しながら販路拡大するというトータルサポートがメリットです。誘致の時点では高知県コンテンツ企業立地促進事業費補助金という補助金を用意しており、3年間で最大2.5億円という充実した内容となっています。また、人材確保・育成にも力を入れています。IT・コンテンツ関連の業界では、大都市圏でなかなか人材を確保できないという現状がありますので、年々強化を続けており、県直営で講座を開催したり、首都圏での人材確保のために首都圏IT・コンテンツネットワークというコミュニティを運営しています。さらに、企業間の連携支援としてコンテンツビジネス起業研究会という組織を作って2ヶ月に1度勉強会を開催したり、外商の推進として首都圏で開催される見本市への出展支援なども行っています。このように自治体の支援がかなり手厚いのがメリットです。

高知県 Contents Business IT・コンテンツ企業立地のススメ

立地支援制度

補助期間	補助上限額
3年	2.5億円

※補助対象事業費：120万円以内
※補助率：50%以内

立地「前」の支援

- 人材確保支援
 - 人材の確保を全力で支援します！
 - IT・コンテンツ企業向けに、県内・県外で人材確保支援を行います。
 - 県内・県外で人材確保支援を行います。
 - 県内・県外で人材確保支援を行います。

立地「後」の支援

- 必要とされる人材の育成に力を入れます！
 - 県内・県外で人材育成支援を行います。
 - 県内・県外で人材育成支援を行います。
 - 県内・県外で人材育成支援を行います。

(高知県 IT・コンテンツ企業立地のススメ パンフレット (抜粋))

また、進出された企業の方は、高知はいい意味で狭いので、すぐに組織のトップクラスの方に会えるということがメリットだとおっしゃられますね。こういった方は都会のトップの方とつながりを持っているので、都会にいるよりも人脈作りが早い場合もあるようです。また、地方なので、都会では埋もれてしまうような事業でも目立つということで引き合いが来ることもあるそうです。

○編集部 デメリットを挙げるとしたら、どんな部分になるのでしょうか。

○武市氏 高知県は全国よりも高齢化が10年早く進んでいる県でして、全国に先駆けて最初に課題が現れる県です。高知県はこういった課題に向き合い、課題解決先進県として積極的に取り組みを進めています。

IT・コンテンツ産業の人材育成・確保

- 現状・課題**
- 県内で情報の知識や技術を学ぶ学生の多くが、就職時に県外に転出
 - 一方、これまでの取組により、IT・コンテンツ関連企業の県内立地が進捗し、アプリ開発人材等の県内での採用が増加
 - 企業の即戦力人材の育成には、大学等の教育を補完する多様な学びの場が必要
- ポイント**
- 県内にIT・コンテンツ関連の新たな学びの場を創出することによって、①実践的プログラミング技術等を持つ人材が増加 ⇒ ②IT・コンテンツ関連企業へ安定的に人材を供給 ⇒ ③人材確保が容易であることで更に企業立地が促進 ⇒ ④就職先が確保されていることで人材の県内定着・集積が更に促進する好循環を実現
 - 首都圏の人材や企業とのネットワークを活用し、人材確保・企業立地を促進

IT・コンテンツ産業従業者をH37年度末までに2,000人に倍増！新規雇用900名を創出！ ※H24経済センサスにおける情報通信業従業者数1,112名

第3期産業振興計画における目標

- ◆企業立地件数(累計)
 - ・H31年度末：18件
 - ・H37年度末(10年後)：36件
- ◆新規雇用者数(累計)
 - ・H31年度末：161名
 - ・H37年度末(10年後)：566名

これまでの成果⇒企業立地件数：14件、新規雇用者数：158名

県内IT企業	(株)アイレップ	(株)AVOCADO	(株)シンフィールド
(株)SHIFT PLUS	(株)オルトプラス高知	(株)コムニコ	
(有)データプロ	(株)Nextremer	(株)dataremer	
.....			

新たな目標

- ◆企業立地件数
 - ・H31年度末：20件
 - ・H37年度末：38件
- ◆新規雇用者数
 - ・H31年度末：300名
 - ・H37年度末：900名

人材供給

人材供給・企業立地



(高知県資料)

逆に言えば、そこにビジネスチャンスがあるということで、企業の方に目を向けていただいています。3年前に、Nextremer（ネクストリーマー）というAIの企業が立地し、地域の課題をAIで解決するというところで事業を始められました。全国に先駆けて発生する課題を先端技術で解決するという先進的な取り組みだとして、平成29年8月に産業革新機構と高知銀行から出資されています。このように、地域に課題があるということ自体が、企業にとってメリットになる場合もあります。

○編集部 観光情報や自然に惹かれて、進出しようという会社もあるのですか。

○武市氏 そうですね。サーフィンが好きなので、釣りが好きなので来ましたという方もいらっしゃいます。

○編集部 それは良いですね。

ところで、先ほど人材育成のお話がありましたが、どのような取り組みをされているのでしょうか。

○武市氏 平成28年度からアプリ開発人材育成講座を開催しています。プログラミングの基礎的な技術を習得するハンズオンや、県内企業の職員のサポートの

元で実際にアプリを開発するような内容で、県内のIT企業やゲーム会社への就職を目標にしています。平成30年度はかなり大きく人材育成を強化しようということで、IT・コンテンツアカデミーとして9つのコースを新たに開設します。TwitterやFacebook等のSNSを使ったマーケティングや炎上リスクなどを学習できるSNSマーケティング人材育成講座や、大学生が中高生にプログラミングを教えるアプリ開発人材育成講座<アドバンスコース>、4ヶ月間でWebアプリケーションの設計から開発・リリース・運用などの知識・技術を学習するアプリ開発人材育成講座<エキスパートコース>、ゲーム会社のOJTプログラムを経験できるゲームプログラマー育成講座とゲームデザイナー育成講座など、幅広い世代の方に向けて様々な講座を準備しています。

○編集部 コンテンツビジネスとなると、著作権などの知識も必要なのではないかと思いますが、県として知識の普及のために何か取り組みは行われていますか。

○光内氏 年に1回、文化庁と高知県の主催で一般の方を対象にしたセミナーを開催し、著作権の普及啓発

を行っています。こちらは毎年 150 名近くの方に参加いただいています。他にも月に 1 回、県の本庁と出先機関を対象に顧問弁理士による知財相談会の開催や、市町村、団体などに知財の専門家を派遣する事業を行っています。また、発明協会が国の知財総合支援窓口になっているので、そちらでも企業からの相談を受けたり、セミナーの開催など、知的財産の普及啓発に取り組まれています。

6. 経済効果について

○**編集部** コンテンツビジネスの活性化や人材育成の取り組みで、例えば新たな企業が生まれるなど、実際に地域に経済的な効果はあったのでしょうか。

○**武市氏** 活動を始めてから 14 社立地していただいています。大きいところだと、SHIFT PLUS（シフトプラス）というゲームの品質保証やサポートなどを行う会社ですが、進出 3 年目で従業員数 100 名を超えています。また、IREP（アイレップ）というウェブ広告会社も従業員数 100 名を超えています。徐々に企業に進出していただけるようになり、昨年度は AR・VR ゲーム・コンテンツの制作を行う AVOCADO（アボカド）、企業向けのマーケティングツールとしてのマンガ制作を行っている SHINFIELD（シンフィールド）、SNS マーケティングを専門で行っている comnico（コムニコ）、ソーシャルゲームの企画・開発・運営を行っている altplus（オルトプラス）などに進出していただき、雇用の拡大につながっています。

7. その他の知財の取り組み

○**編集部** まんがやコンテンツ関連以外の知的財産に関する取り組みはありますか。

○**光内氏** 特許については、県の産学官民連携センターで、大企業等の開放特許と県内中小企業の技術をマッチングし、県内中小企業における新製品開発等を促進しています。産業創造課でも県が所有する特許でそのような取り組みができないかと考えていますが、県所有特許の共有者の意向の確認などが必要であり、マッチングはできていません。しかし、高知県には海洋深層水関係の特許がいくつかあるので、例えばそういった高知ならではの資源の特許について、有効活用できないか検討していきたいと思います。

○**編集部** 商標関係ではいかがでしょうか。

○**光内氏** 各市町村や地域で産業振興に取り組む団体をサポートするため、知的財産の専門家派遣を行っています。また、その地域の企業、行政職員、地域おこし協力隊の方などに対しセミナーを開催することによって、商標や地域ブランドのつくり方を理解していただき、産業振興の 1 つのツールとして意識していただいています。商標に関しては、様々な地域から専門家派遣やセミナー開催の要望をいただきますので、できるだけ要望に沿ったセミナー開催などの支援をさせていただきます。

○**編集部** 地域に根差したセミナーを開くことがあるのですね。

○**光内氏** そうですね。高知市内で広範囲に人を集めて開催するセミナーと、地域独自のニーズに応じて開催する少人数のセミナーの両方を開催しており、日本弁理士会にもご協力いただいています。地域でのセミナーでは、「知財とは」という難しい内容でなく、商標や地域のブランドをどう使っていくかという内容が中心になっています。

8. 今後の課題

○**編集部** コンテンツ産業の振興や企業の誘致、まんが文化の振興を進めていく上で、今後の課題や目標はありますか。

○**武市氏** まず、コンテンツ産業の振興から申し上げますと、一番は人材の確保ですね。県内でも優秀な人材が常に求められますし、誘致活動においても、「人が雇用できるのであれば行きたいです」と必ず言われるので、どんな人がいるか、どれぐらい人を確保できるかが、今後もっとコンテンツ産業の振興を進めていく中で重要になってくると考えています。

○**田村氏** まんが文化の振興では、漫画家大会議などイベントへの集客を高めることが課題です。また、大きな視点で見れば、まんがを使っていかに人材育成をしていくかという点が目標ですね。クリエイティブな人をどれだけ育てられるか。それをやるのにはまんがが一番です。白い紙と鉛筆さえあれば、考えたことを表現していくことができます。まんがを活用してクリエイティブな人々をどんどん輩出する環境を作って、コンテンツ産業の振興につないでいくのが、県のやるべき取り組みではないかと思っています。

9. 弁理士への期待

○編集部 最後に、弁理士や知財の専門家に期待することがあれば、ぜひお聞かせください。

○田村氏 私たちは、弁理士をはじめ知財関係の方が身近で、何かあったら相談することが多いので、ほんとうに助かっています。引き続きそういったアドバイスやご支援をいただければと思います。

○武市氏 企業が商品を開発する場合、必ず著作権、特許、商標が絡んでくるので、我々は頑張って産業振興を行い、もっと弁理士さんに活躍していただけるようになるといいなと思っています。

○編集部 本日は貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。

10. 高知県紹介写真

○高知県庁

高知県庁本庁舎の建物です。



○高知城

本丸の建造物が完全に残る唯一の城です。



○カツオのたたき

高知県庁に程近いひろめ市場でおいしく頂きました。



— 了 —